

市政に臨む基本方針及び令和7年度市政方針

令和7年2月

愛する苫小牧

希望の光あふれる

元気な未来のため



苫小牧市長
金澤 俊



市政に臨む基本方針及び令和7年度市政方針

(令和7年2月)

市政に臨む基本方針

1. はじめに

- (1) 市政への想い ----- 4
- (2) 時代認識 ----- 4
- (3) まちづくりの姿勢 ----- 5

2. 基本政策

- (1) 子どもど真ん中のまち 苦小牧 ----- 7
- (2) 経済発展最大化のまち 苦小牧 ----- 8
- (3) よい環境と活力あふれるまち 苦小牧 ----- 10
- (4) 教育のまち 苦小牧 ----- 12
- (5) 医療・ふくし、防災のまち 苦小牧 ----- 14
- (6) 「スポーツ×文化×観光×健康」
のまち 苦小牧 ----- 16
- (7) 市民総活躍のまち 苦小牧 ----- 18

令和7年度市政方針

1. 重点施策

- (1) 未来ある子どもたちへの投資促進！ ----- 22
- (2) 民間投資促進で企業とともに未来を創造！ ---- 23
- (3) 後世に渡せるまちづくりを！ ----- 24

2. 自治体運営に関する取組

- (1) 市民によるまちづくりの推進 ----- 25
- (2) 健全な行財政運営の推進 ----- 26

3. まちづくりの目標に関する取組

(1) 共に支え合い健やかに暮らすまち

- 保健予防対策の充実 ----- 28
- 医療体制の整備・充実 ----- 28
- 地域福祉の推進 ----- 28
- 高齢者福祉の推進 ----- 28
- 障がい者福祉の推進 ----- 29

(2) 明日を拓く力みなぎる産業のまち

- 工業の振興 ----- 29
- 商業の振興 ----- 29
- 農業の振興 ----- 30
- 水産業の振興 ----- 30
- 林業の振興 ----- 30
- 観光の振興 ----- 30
- 雇用・労働環境の整備・充実 ----- 30
- 新千歳空港の拠点形成強化と
周辺環境対策の推進 ----- 31
- 港湾整備 ----- 31

(3) 学ぶ喜びがあふれる文化の薫るまち

- 教育行政 ----- 32
- 北洋大学 ----- 32
- 市民スポーツの推進 ----- 32
- 苦小牧市民文化ホール ----- 32
- 国際交流の推進 ----- 33
- 国内交流の推進 ----- 33

(4) 自然と環境にやさしいまち

- 自然環境の保全 ----- 33
- 公害の防止 ----- 33
- ゼロカーボンシティの実現 ----- 34
- 生活衛生の充実 ----- 34
- ごみの減量とリサイクルの推進 ----- 34

(5) 安全・安心で快適に暮らすまち

- 居住環境の充実 ----- 35
- 上下水道の整備・健全な維持管理 ----- 35
- 道路の整備 ----- 35
- 公共交通の充実 ----- 35
- 消防・救急体制の充実 ----- 36
- 防災体制の充実 ----- 36
- 交通安全の推進 ----- 36
- 防犯対策の推進 ----- 36
- 消費生活の安定 ----- 36

4. 予算編成

5. むすび

市政に臨む基本方針

令和7年2月



市政に臨む基本方針

1 はじめに

(1) 市政への想い

私は、“のびゆく 苫小牧！選ばれるまち 苫小牧へ！”をスローガンに、7つのビジョンと34項目91の公約を掲げ、市長選挙に臨みました。選挙戦を通じて、市民の皆さまからご支援や温かいお言葉をいただき、寄せられた期待の大きさ、課せられた責任の重大さを改めて実感しております。この期待に確実に応えるため、目の前に立ちはだかる様々な課題に対して全力で挑み、市民の皆さま、そして未来を担う子どもたちや孫の世代が安心して生活を送れるよう各種施策に取り組み、道を切り拓いてまいります。

(2) 時代認識

政府は、急速に加速する人口減少問題に対して、“地方創生2.0”※を起動し、誰もが安心して住み続けられる地方の構築を進めることとしております。

本市においては、昨年、社会動態はプラスに転じたものの、令和3年まで1,000人台を維持していた出生数が700人台になるなど、自然動態の減少が加速しております。いかに自然動態の減少に歯止めをかけ、

社会動態の増加を図るかが、喫緊の課題と認識をしております。

また、人口減少とそれに伴う経済活動の縮小は税収にも影響を及ぼすものであり、これまで以上に厳しい予算編成と効率的な執行が想定される中、財政の健全性を維持しながら、様々な社会経済情勢や市民ニーズに対応できる財政基盤を確立していく必要があります。

一方で、半導体企業の立地や大規模データセンターの進出を契機に、経済界には明るい兆しが見えるなど、本市を取り巻く環境は大きな転換期にあります。

また、近年、気候変動問題への関心が世界的に高まりを見せる中、脱炭素に取り組む企業が急速に拡大しており、CCUS※をはじめとする先駆的なGX施策を複数実施している本市は、企業から高い注目を集めております。

さらに、10年の時を経て動き出した駅前再開発は、活力あるまちづくりを進める上で、大きな推進力になるものと考えております。

（３）まちづくりの姿勢

新しい苫小牧を切り拓き、持続的な発展を目指す上において、まずは未来を担う子どもたちの笑顔を守ることが重要です。

子どもたちの笑顔は、市民の幸せやシビックプライド※の醸成につながります。また、子どもたちへの投資は、少子高齢化の時代において、社会保障の持続性を高め、高齢者や障がいを持つ方を含めたすべ

ての市民生活の安心につながり、ひいてはまち全体の魅力を向上させるものと捉えております。

子育て支援策の更なる充実、教育環境の整備など、“子どもど真ん中のまち”の実現にチャレンジしてまいります。

また、産業都市として発展を続ける本市におきましては、海と空のダブルポートを擁する地理的優位性を含め、更なる経済発展、つまりは“のびゆく”ポテンシャルを秘めたまちであると確信しております。

昨今の追い風を逃すことなく、民間投資を呼び込み、“経済発展を最大化”することにより、雇用を生み、人口減少に歯止めをかけてまいる所存です。

いずれにしましても、人口減少を食い止めるためには、希望や魅力があふれる“選ばれるまち”を目指す必要があるものと捉えております。

苫小牧の「顔」となる駅前の再開発はもとより、ゼロカーボンやスマートシティ※の推進、公共交通網の整備など、あらゆる分野においてまちの魅力を高める取組を模索し、これを実行に移すとともに、その魅力を効果的に発信することにより、“選ばれるまち苫小牧”を実現してまいります。

その手段の一つとして、年度ごとにテーマを定め、1年を通して集中的にチャレンジする“選ばれるまちプロジェクト”を、略称“まちプロ”として展開してまいります。

■ 2 基本政策

(1) 子どもと真ん中のまち 苫小牧

〈子育て支援策を拡充します〉

小学校に入学する児童を対象とした給付を行い、子育て世帯の経済的負担の軽減を図るとともに、ひとり親家庭に対する新たな支援制度を創設し、経済的自立につなげてまいります。

〈子育て機能の拠点形成します〉

駅前再開発に連動させ、全天候型遊具広場の設置を検討するとともに、室蘭児童相談所苫小牧分室における一時保護所機能の強化を北海道に粘り強く要望するなど、子育て機能の拠点形成に努めてまいります。

〈子ども若者のメンタルヘルスケアを推進します〉

子育て支援に関する総合窓口の設置を検討し、事務の効率化と市民サービスの向上を目指してまいります。

また、児童クラブや児童センターのほか、COCOTOMAを活用するなど、子ども若者のニーズに対応した居場所づくりを推進してまいります。

〈ヤングケアラー支援体制を強化します〉

ヤングケアラー※支援条例に基づく取組を継続するとともに、本人や支援者、関係機関などが交流する場を設置し、地域全体で支えるセーフティネットを構築してまいります。

〈医療的ケア児への支援体制を強化します〉

いとい北保育園の建替えに併せ、公立保育園の特別保育の充実を図り、医療的ケア児の受入れが可能となる環境を整備してまいります。

また、5歳児発達相談の充実を図るとともに、必要な人材や受け皿の確保について関係機関と十分な協議を行い、5歳児健診に向けた道筋をつけてまいります。

（２）経済発展最大化のまち 苫小牧

〈苫小牧ブランドの発信により関係人口の増加を図ります〉

特産品の効果的なPRにより、ふるさと納税を拡大するとともに、立地環境や暮らしやすい気候など本市の優位性を積極的に発信するほか、スポーツ都市としての特色をいかしたシティプロモーションの取組を強化するなど、様々な手段により関係人口の増加を図ってまいります。

〈企業誘致のトップセールスとアプローチ体制を強化します〉

半導体企業の進出を契機に、北海道バレー構想※の実現に向けて、好機を逃さない積極的なトップセールスを実施するとともに、機動的な組織体制を構築し、企業誘致活動を戦略的に推進してまいります。

また、北海道のGX特区※指定を踏まえ、関連産業の投資誘発を促進するほか、関係自治体等と連携し、半導体デジタル産業の誘致活動を進めてまいります。

〈既存企業へのフォローアップを強化します〉

企業訪問等を通じて、情報収集や分析を行い、フォローアップの拡充を進めてまいります。

また、産学官金が連携した体制を構築し、企業の技術課題解決に向けた支援を強化してまいります。

さらに、企業の創業や事業承継を後押しする取組を推進するとともに、販路拡大に取り組む事業者への支援を強化し、中小・小規模事業者の振興につなげてまいります。

〈人手不足対策と多文化共生の推進を強化します〉

奨学金返還支援を実施するとともに、市内企業の特色や魅力を発信し、UIJターン※による生産年齢人口の確保と定着を促進してまいります。

また、市内企業のインターンシップ受入環境の整備や学生とのマッチングを促進するほか、課題解決型のインターンシップを実施し、学生と企業が相互に成長する機会を創出してまいります。

さらに、外国人材については、企業への支援や各種セミナーの実施を通じて受入環境を整備するほか、外国人に対する言語支援や文化理解に関する施策を引き続き実施し、多文化共生のまちづくりを進めてまいります。

〈世界から選ばれる苫小牧港を目指して機能を強化します〉

海外ポートセールスを実施し、苫小牧港の知名度向上や利用促進を図るとともに、関係者と緊密な連携を図り、国際コンテナターミナルの運営体制や機能の強化に努めてまいります。

また、キラキラ公園におけるイベントの充実やPRの強化を行い、市民や観光客の来訪を促すなど、ウォーターフロント※の魅力向上と恒常的なにぎわい創出に努めてまいります。

（３）よい環境と活力あふれるまち 苫小牧

〈駅前再開発とまちなか総合アリーナ建設に着手します〉

旧サンプラザビルの解体に着手し、１日も早く駅周辺エリアのにぎわいを取り戻すプロセスを進めてまいります。

また、駅前再開発に連動させ、行政機能の配置を検討し、新たな魅

力や利便性の向上に資する取組を進めてまいります。

さらに、まちなかへの総合アリーナ建設に向けた構想策定に着手するなど、本市のスポーツ拠点としての方向性を導き出してまいります。

〈ゼロカーボンシティを推進します〉

豊かな自然環境や安全で安心な生活環境の保全を図りながら、再生可能エネルギーの適正導入を推進してまいります。

また、CCUS※をはじめとする先駆的なGX施策を複数実施する本市の優位性をいかし、地元企業の脱炭素推進に向けた機運の醸成や再生可能エネルギーの普及促進、新エネルギーの導入検討など、グリーンエネルギー※のモデル都市を目指してまいります。

さらに、苫東地域におけるマイクログリッド※の形成など、苫東GX HUB構想※の実現に向けた取組を推進してまいります。

〈近未来の公共交通網の整備を促進します〉

市街地と距離のある勇払地区において、AIデマンド※乗合タクシーの実証運行に取り組むとともに、東西基幹交通や幹線との接続、新千歳空港からの新たな動線など、近未来の公共交通網の整備を促進し、次世代に向けた都市交通の実装を目指してまいります。

〈国際リゾート構想を推進します〉

半導体企業や大規模データセンターの進出、GXの推進などによる社会変容を分析しながら、統合型リゾート（IR）を含めた国際リゾート構想の実現に向けた取組を再構築してまいります。

また、国や北海道と連携し、民間投資による新千歳空港周辺の更なる土地活用を推進してまいります。

〈ゼロごみのまちの進化を図ります〉

家庭ごみ収集は、一部戸別収集を実施しておりますが、地域事情や市民ニーズ等を踏まえ、ステーション収集を軸としながら、安定的かつ持続可能な収集サービスの在り方を再検討してまいります。

また、（仮称）環境マイスター制度を創設し、市民とともにゼロごみのまちの更なる進化を追求してまいります。

さらに、次期埋立処分場の整備について検討を進め、将来にわたる安定したごみ処理体制の確立を目指してまいります。

（４）教育のまち 苫小牧

〈夢を語る子どもと実現させる教育環境づくりを進めます〉

子どもたちの夢の実現を行政や地域が後押しする取組を進めるほか、夢実現教育を全校で実施するなど、大きな夢に向かって活躍する人材をまちぐるみで育ててまいります。

また、英語の楽しさやスキルアップを体感できる機会を提供するとともに、子どもたちの英語に対する興味関心を育みながら、グローバル人材の育成に努めてまいります。

さらに、外部人材を活用して、子どもたちに暮らしや資産運用などの社会経済の仕組みを主体的に考える機会を提供し、お金に関する正しい価値観を持つ大人への成長を促してまいります。

〈創造的な学びができる学校を実現します〉

全小中学校に校内教育支援センターを開設し、子どもたちが、安心して学べる場を提供するなど、支援の充実を図ってまいります。

また、子ども一人ひとりのニーズに応じた学びが深められるよう、教育環境の選択肢を増やし、子どもたちの社会的自立を促進してまいります。

さらに、スクールロイヤー※の活用を推進し、保護者対応を行う教師の負担軽減につなげてまいります。

〈小中学校規模適正化の取組を加速します〉

小中学校の規模適正化に向けた新たな計画を策定し、地域の実情と将来人口に応じた教育環境づくりを進めてまいります。

〈理系人材育成につながる科学センター構想を推進します〉

将来を担う子どもたちの科学に対する興味関心を育み、半導体やゼロカーボンなど、本市の強みをいかしたキャリア教育の充実と、GX関連産業などをリードする人材の育成に向けた拠点として、駅前にサイエンスパークの設置を目指してまいります。

〈いじめ撲滅に向けた取組を推進します〉

子どもたちが他人を思いやり良好な関係を築くため、ネット中傷防止に関する条例を制定し、いじめ撲滅の取組を推進してまいります。

また、子どもが命の守り方を身に付けられるよう、相談することの重要性を学ぶ機会の提供や悩みを広く受け止める相談窓口の拡充、自殺総合対策などの取組を着実に進めてまいります。

さらに、道德教育の充実に取り組むなど、子どもたちのコミュニケーション力向上を図ってまいります。

（５）医療・ふくし、防災のまち 苦小牧

〈医療と介護DXの推進による効率化を図ります〉

医療や介護、福祉、救急、防災など、多様なサービスが連携する情報基盤を整備するほか、重層的支援体制整備事業を新たに実施し、市民一人ひとりの暮らしと生きがいを創る、地域共生社会の実現を目指してまいります。

また、医療DX構想※に基づき、本市の実情に合った医療体制を構築するとともに、市立病院については、患者サービス向上に資するDXを推進し、選ばれる病院を目指してまいります。

さらに、ITスキルを有する職員の確保と育成に努めるほか、国が整備を進める介護情報基盤の活用を支援するなど、業務効率化を図ってまいります。

〈東胆振・日高地域の医療圏域を確立します〉

周産期医療体制を強化するとともに、こども家庭センターにおける出産後の伴走型支援などを着実に進め、安心して出産や子育てができる環境の整備に努めてまいります。

また、市立病院については、苫小牧市医師会と連携し、救急医療体制の堅持と新興感染症への備えを強化するほか、医療スタッフの安定的な確保と医療機器等の計画的な整備を行い、東胆振・日高地域のの中核病院としての役割を果たしてまいります。

〈防災インフラの充実と市民意識の向上を図ります〉

最新の国の知見や災害想定に対応するよう、地域防災計画の見直しを行い、これに基づく防災教育を推進し、市民の意識向上を図ってまいります。

また、勇払地区及び錦糸・ときわ地区において、津波避難施設を整

備し、防災インフラの充実を図ってまいります。

さらに、救急資器材の充実と救急車の適正利用の啓発に取り組み、業務の迅速化と円滑化を図り、救える命の確保に努めてまいります。

〈障がいのある方が住みやすいまちづくりを推進します〉

企業に対し、あいサポーター研修を実施し、障がい特性の理解を促す取組を行うなど、障がいのある方の雇用の機会を拡大し、安心して働ける環境づくりを進めてまいります。

〈高齢者が安心して暮らせる環境を整備します〉

介護ロボットやICT※の活用を推進し、福祉現場の業務効率化と現場職員の負担軽減につなげてまいります。

また、緊急通報システムの機能を強化し、見守り体制の充実を図ることにより、高齢者が安心して暮らせる環境を整備してまいります。

（６）「スポーツ×文化×観光×健康」のまち 苫小牧

〈スポーツ観光都市 苫小牧を推進します〉

本市の優れたスポーツ環境を積極的に発信し、スポーツ合宿や大会の誘致、さらには移住促進につなげてまいります。

また、観光部署を中心に苫小牧版庁内DMO※を新たに設置し、地域経営の視点に立った観光地域づくりを推進してまいります。

さらに、本市の優位性などをPRし、プロスポーツチームのキャンプや国際規模・全国規模の大会を積極的に誘致することにより、スポーツを通じた地域の活性化につなげてまいります。

〈芸術文化で豊かな心をつなぐまちづくりを推進します〉

美術博物館、図書館などの文化施設を活用したアートフェスティバルの内容を充実し、誰もが気軽に文化や芸術に触れる機会を提供してまいります。

〈文化イベントの誘致強化による観光の促進を図ります〉

苫小牧市民文化ホールにおいて、国内外の著名な音楽家やオーケストラを招いたイベントを開催するなど、集客によるまちのにぎわいの創出に努めてまいります。

〈スポーツと健康増進を融合させた事業を展開します〉

アプリを活用したウォーキング等の健康増進事業を実施し、スポーツの習慣化による健康寿命の延伸と市民の健やかな生活の実現を推進してまいります。

〈宿泊税を導入し、観光振興を図ります〉

新たに宿泊税を導入し、これを財源として、冬季イベントの誘致な

ど閑散期における各種施策を実施するとともに、スポーツ合宿等の各種補助制度を拡充し、M I C E※誘致の推進と観光業の振興を図ってまいります。

また、アイスホッケーをはじめとした地域の観光資源を活用した魅力的なモデルツアーを造成し、国内外からの交流人口の増加につなげてまいります。

さらに、老朽化が著しいぷらっとみなと市場の再整備を進め、本市を代表する観光拠点の利便性と魅力向上を図るほか、ガイドブックをリニューアルし、工場見学や産業視察の促進に努め、産業観光を強化してまいります。

（７）市民総活躍のまち 苫小牧

〈民間活力の活用と自治体ＤＸを推進します〉

本市で実施する各種事業の在り方について、目的や必要性等を客観的な視点で点検し、事業の統廃合やスリム化を実施するほか、民間になじむもの、委ねることが可能なものは民間へという理念のもと、市役所業務の民間委託拡大を検討し、社会情勢の変化に対応した持続可能な行政運営を目指してまいります。

また、業務に適した生成ＡＩ※システムの導入や文書管理システムの適正な利用を通じて、業務効率化を推進してまいります。

さらに、港まつりとスケートまつりにおいて民間活力の活用を拡大

し、夏と冬の２大まつりの魅力向上を図ってまいります。

〈投資効果の検証により公共施設の適切な整備を推進します〉

新たな公共施設等総合管理計画を策定し、財政規模や将来人口を踏まえた公共施設の在り方を導き出してまいります。

また、民間施設を有効活用した市営住宅管理戸数の適正化の可能性を探るほか、さらに、転入者の受入れなど、移住者枠の確保に努めてまいります。

老朽化した公設地方卸売市場水産棟については、再整備に向けた計画を策定し、漁港エリアの魅力向上に努めてまいります。

〈あらゆる市民・企業・団体・自治体のアイデアや力を最大限活用したまちづくりを進めます〉

市民や企業、団体とともに、市長とジェンダーミーティングを継続的に実施するほか、LGBT※の理解増進やDV被害者への支援の強化を進めるなど、男女平等参画社会の実現に努めてまいります。

また、社会貢献活動にかかる兼業制度を導入し、部活動指導員として市職員を活用することにより、地域課題である部活動の地域展開を円滑に進めてまいります。

さらに、多様な主体と連携・協働を推進することにより、より強固なまちづくりの推進環境を整備してまいります。

〈市政課題解決のための市役所づくりを推進します〉

職員情報のD X化を図るタレントマネジメントシステム※や業務遂行レベルに着目した復職支援プログラムの導入に加え、ハラスメントの外部相談窓口を設置し、職員のワークエンゲージメント※を向上してまいります。

また、業務の繁閑に応じた組織間の職員流動体制の構築や、執務室のフリーアドレス化※を推進し、行政運営の能率向上と円滑化を目指してまいります。

さらに、民間企業や中央省庁等との人事交流を積極的に行い、市政課題の解決や職員のスキルアップにつなげるほか、役職定年職員を有効に活用し、知識や技術の承継を円滑にするなど、行政運営の活性化を図ってまいります。

令和7年度市政方針



1 重点施策

(1) 未来ある子どもたちへの投資促進！

未来を担う子どもたちの笑顔を守るという基本方針のもと、新たなこども計画の策定に着手するとともに、子育て世帯の経済的負担の軽減と子育て環境の整備を2つの柱として施策を展開し、“子どもど真ん中のまち”の実現を目指してまいります。

1つ目の柱である、子育て世帯の経済的負担の軽減としましては、小学校入学祝い給付事業を実施するほか、1か月児健診の費用助成を行ってまいります。

また、ひとり親家庭への支援として、養育費等の履行確保に向けた助成制度を創設し、経済的自立を支援してまいります。

次に2つ目の柱である、子育て環境の整備としましては、いとい北保育園の建替えに向けた設計業務に着手するとともに、公立保育園の役割を踏まえた特別保育の内容を定めてまいります。

また、子ども食堂への支援を拡充するほか、児童センターなどの機能の充実やCOCO TOMAを活用した高校生世代の居場所づくりを進めてまいります。

さらに、ヤングケアラー支援条例の普及啓発に努め、本人とその家族を見守り、適正な支援ができる環境を構築してまいります。

また、令和7年度は、“子どもと真ん中のまち”を“まちプロ”のテーマとして掲げ、各種の取組を展開し、地域全体で子どもたちを支える機運を醸成してまいります。

（２）民間投資促進で企業とともに未来を創造！

“経済発展を最大化”する上で企業立地の促進は、重要なファクターとなります。

近年、苫東地域をはじめとした広大な産業用地や物流の利便性、再生可能エネルギーのポテンシャルなど、本市の優位性が注目を集め、企業の投資意欲が活発化しております。

この巡ってきた好機を逃さず、積極的なトップセールスを実施するほか、企業の進出状況や経済情勢を踏まえたプッシュ型の誘致活動など、企業アプローチを強化することにより、更なる産業集積を図り、産業都市としての成長を加速させてまいります。

また、今の時代を生きる私たちの責務として、ゼロカーボンに資する取組が求められております。

企業と連携し、本市における先進的C C S※事業や、水素など次世代エネルギー拠点の形成、カーボンリサイクルなどの取組を進め、再

生可能エネルギーのポテンシャルをいかした脱炭素化を加速させることにより、ゼロカーボンシティ※の実現と地域産業の振興の両立を目指してまいります。

（３） 後世に渡せるまちづくりを！

今後のまちづくりの方向性として、“産業振興”、“快適な住環境”、“交通物流”をキーワードに、民間活力をいかした魅力あるまちづくりを進める必要があります、私をトップとする戦略本部を新たに設置し、組織横断により未来のまちづくりを進めてまいります。

また、都市再生コンセプトプランを具現化する中で、市内に点在する魅力資源を活用して来訪を促進する事業を展開し、にぎわいを創出するほか、産業都市としての特徴をいかしたM I C E※の誘致に取り組み、国内外からの交流人口の増加を目指してまいります。

スマートシティ※の推進に向けましては、医療や交通など様々な分野においてデジタル技術等の活用を図り、地域課題の解決や市民生活の質の向上に取り組んでまいります。

まちなかの活性化に向けましては、苫小牧駅周辺ビジョンの基本構想に示す都市機能の導入を促進するとともに、駅前再整備に向け、パートナー事業者を選定し、地権者との合意事項を踏まえた具体的な取組を進めてまいります。

■ 2 自治体運営に関する取組

(1) 市民によるまちづくりの推進

地域活動の促進につきましては、町内会の加入率低下などの課題解決に向け、町内会連合会等との検討組織を立ち上げ、新たなビジョンの策定に着手してまいります。

市民自治の推進につきましては、多様な主体との連携を強化するとともに、広聴事業の見直しを行い、市民との対話の充実を図ることにより、市民参加と協働のまちづくりを進めてまいります。

男女平等参画の推進につきましては、市民、企業、団体などと連携し、更なる意識醸成に向けた各種施策を展開するとともに、多様な性を尊重する取組を加速させ、男女平等参画社会実現への歩みを進めてまいります。

平和の推進につきましては、戦後80年を迎えることから、非核平和事業を拡大し、戦争を知らない世代へ、その悲惨さや平和の尊さを伝えてまいります。また、非核平和都市条例を制定しているまちとして、その象徴となる“平和の鐘”の制作を進めてまいります。

（２）健全な行財政運営の推進

財政運営につきましては、人口減少や少子高齢化を背景に厳しい状況が見込まれております。さらに景気の動向や物価高騰の影響も見通しが難しい中、様々な行政課題や市民ニーズに応えるため、財政運営持続化計画で定める４つの財政秩序を踏まえ、持続可能で安定した財政運営に努めてまいります。

行政改革につきましては、ＩＣＴ※の推進を統合した新たな計画に基づき、関連業務の最適化をはじめとする実効性の高い取組を進めるなど、行政運営の効率化を図ってまいります。

行政組織の活性化につきましては、行政の果たすべき役割を的確に把握し、柔軟かつ機動的な組織体制を構築するほか、生成ＡＩ※の導入や職員用の端末環境を整備するなどデジタル化を進め、市民サービスの向上と業務の効率化を図ってまいります。

また、自立型人材の育成をテーマとした研修の拡充や人事評価制度の効果的な運用を通じて、活力ある組織の実現を目指してまいります。

さらに、ハラスメントにかかる外部相談窓口を設置するほか、業務遂行レベルに着目した復職支援プログラムを導入するなど、職員が心身ともに健康で、個性や能力を最大限に発揮する職場環境の整備に努めてまいります。

広域連携の推進につきましては、東胆振４町と締結している定住自

立圏形成協定のもと、新たな共生ビジョンの運用を開始し、圏域として必要となる生活機能の確保と発展に向けて取り組んでまいります。

■ 3 まちづくりの目標に関する取組

(1) 共に支え合い健やかに暮らすまち

保健予防対策の充実につきましては、生活習慣病の予防に向けた食生活の改善や運動の習慣化を中心とした健康づくり、重症化予防事業における訪問勧奨など、健康を支える環境づくりに取り組み、健康寿命の延伸を目指してまいります。

また、定期接種化となる带状疱疹ワクチンの接種体制構築に向けて、関係機関と速やかに協議を行ってまいります。

さらに、医療DX構想※に基づき、地域医療情報連携ネットワークの基盤整備に向けた取組に着手し、医療系サービスの向上と業務の効率化を図ってまいります。

医療体制の整備・充実につきましては、救急医療や新興感染症への対応など、東胆振・日高圏域の中核病院として必要な医療機能を堅持するとともに、安心して出産や子育てができるよう、周産期医療体制を強化してまいります。

地域福祉の推進につきましては、重層的支援体制整備事業を開始し、地域住民と協働しながら、地域が抱える複雑化・複合化した課題に対応してまいります。

高齢者福祉の推進につきましては、認知症高齢者グループホームの

整備を支援するほか、外国人を含めた介護人材の確保や育成に加え、国が整備を進める介護情報基盤や介護ロボット・ICT※の活用に向けた取組を行い、介護現場の業務効率化に努めてまいります。

障がい者福祉の推進につきましては、訪問看護を活用した医療的ケア児レスパイト事業を実施し、本人とその家族への支援の充実を図ってまいります。

また、障がい者雇用奨励金をリニューアルするほか、あいサポート運動や手話の普及啓発を通して障がい特性の理解を促し、誰もが暮らしやすい地域社会の実現に努めてまいります。

（２）明日を拓く力みなぎる産業のまち

工業の振興につきましては、テクノセンター機器整備事業を実施し、企業における技術課題の解決や生産技術の高度化を支援するとともに、産学官金の連携を深め、新技術の導入や新規事業の創出を後押ししてまいります。

商業の振興につきましては、ぷらっとみなと市場の再整備計画に基づき、老朽化対策を進めるほか、ICT※を活用して販路拡大に取り組む事業者への支援を強化するなど、にぎわいのある商店街づくりを目指してまいります。

また、企業の創業や事業承継に関する支援を行い、中小企業の経営

基盤の安定と強化につなげてまいります。

農業の振興につきましては、新規就農者の負担軽減や担い手の確保を進めるとともに、関係団体と連携を図り、経営基盤の強化に努めてまいります。

水産業の振興につきましては、ホッキ貝等の安定的な供給を支援するほか、関係団体と協力し、子どもたちへの魚食普及を推進することにより、水産物の消費拡大を図ってまいります。

林業の振興につきましては、林業経営の効率化と森林管理の適正化を促進することにより、水資源のかん養[※]や生物多様性[※]の保全、さらには二酸化炭素の吸収など、森林が持つ多面的機能を発揮させ、ゼロカーボンの推進に貢献してまいります。

観光の振興につきましては、観光振興ビジョンを改定し、地域資源を活用した更なる観光誘客に取り組むなど、交流人口増加による地域経済の活性化を目指してまいります。

また、地域の観光業を支えるための財源として、宿泊税の導入に向けた検討を進めてまいります。

雇用・労働環境の整備・充実につきましては、合同企業説明会への出展や採用コンサルティングなど、労働市場の動向を踏まえつつ、企業の人材確保を支援してまいります。

また、企業の課題解決を図るため、専門家による相談や助言を行う

ほか、障がい者や外国人材を雇用する企業に対して支援を行うなど、誰もが働きやすい職場環境づくりと人材定着を進めてまいります。

さらに、求職者に対しては、就職に役立つスキルや知識の習得のほか、伴走型の支援を行い、企業とのマッチングを図ってまいります。

公共工事の発注においては、週休2日制工事の本格導入に向け検討するほか、早期発注による施工時期の平準化を継続し、建設業の働きやすい職場環境づくりや人手不足への対応に努めてまいります。

新千歳空港の拠点形成強化と周辺環境対策の推進につきましては、誘客促進プロモーションの実施や北米航空路線の誘致を進めるなど、新たな航空需要の創出につなげてまいります。

また、24時間運用拡大に伴う住宅防音対策を着実に進めるほか、千歳基地における各種訓練に対しては、迅速な情報収集や周知を行い、市民の安全・安心の確保に万全を期してまいります。

さらに、統合型リゾート（IR）を含めた国際リゾート構想の実現に向けましては、引き続き北海道と協議を重ね、誘致に向けた取組を進めてまいります。

港湾整備につきましては、東港区周文ふ頭の複合一貫輸送ターミナルの整備を進め、道産農水産品などの貨物需要やトラックドライバーの時間外労働の上限規制・人手不足等の諸問題に対応するとともに、大規模自然災害などに備えた耐震・防災機能を強化し、緊急物資輸送

等に的確に対応するための環境整備を進めてまいります。

また、臨海部におけるゼロカーボン化に向けた取組を進め、関連産業の創出や誘致につなげるとともに、これまで構築した海陸輸送ネットワークをいかし、水素などの次世代エネルギー供給拠点の形成を目指してまいります。

（３）学ぶ喜びがあふれる文化の薫るまち

教育行政につきましては、教育大綱の基本理念に掲げる“未来の社会をつくるひとづくり” に向け、教育行政執行方針のもと、各種施策に取り組んでまいります。

北洋大学につきましては、大学と連携・協力し、学生確保や卒業生の市内企業への就職促進を含めた側面的な支援をしてまいります。

市民スポーツの推進につきましては、スポーツ習慣化促進事業や青少年スポーツ振興事業などを通じて、スポーツ活動への参加を促し、健康増進やスポーツ人口の拡大に努めてまいります。

また、総合体育館整備調査の結果等を踏まえ、最適な整備方針を定めるとともに、老朽化したスポーツ施設の整備を計画的に進め、安全で充実したスポーツ環境を整えてまいります。

苫小牧市民文化ホールにつきましては、令和８年３月のオープンに向けて施設整備を着実に進めるとともに、オープニングセレモニーな

どの企画実施による機運の醸成を図りながら、多くの市民が集い親しまれるサードプレイス※の実現を目指してまいります。

国際交流の推進につきましては、多文化共生指針に基づき、地域と協働で各種施策を展開することにより、国籍や文化的背景に関わらず、誰もが地域の未来を創る一員として共に生活できるまちづくりを目指してまいります。

また、子どもたちの海外派遣や市内在住外国人との交流事業を実施し、グローバル人材の育成に努めてまいります。

国内交流の推進につきましては、姉妹都市である八王子市や日光市との交流を進めるほか、はちとまネットワーク事業を通じて八戸市との連携を深め、相互のより一層の発展につなげてまいります。

（４）自然と環境にやさしいまち

自然環境の保全につきましては、新たに生物多様性地域戦略を策定し、市民、企業、団体などに生物多様性※の重要性を普及啓発するなど、各種施策を展開してまいります。

また、野生鳥獣対策として、ドローン等のＩＣＴ※を導入し、市民の安全確保や生活環境被害の軽減につなげてまいります。

公害の防止につきましては、大気汚染や航空機騒音の常時監視を継続するとともに、事業所への立入調査を通じて、適切な指導に努めて

まいります。

ゼロカーボンシティ※の実現につきましては、脱炭素先行地域計画に基づき、産業部門の脱炭素化を民生部門に波及させ、地域課題の解決に向けたモデル事業となるよう、取組を進めてまいります。

また、再生可能エネルギー発電設備の適正導入を推進するほか、市有施設における照明のＬＥＤ化や遊休市有地を活用した地産地消の再生可能エネルギー導入の可能性を追求してまいります。

さらに、家庭向けのＺＥＨ※や省エネ・再エネ設備の導入に対する支援を継続するほか、ゼロカーボンに関するイベントや出前講座などを通じて、市民の機運醸成を図ってまいります。

生活衛生の充実につきましては、高丘霊葬場長寿命化計画に基づき、建物や設備機器の改修を行ってまいります。

また、ペットの不適正飼育をはじめとした諸問題については、北海道や関係団体などと連携し、取組を進めてまいります。

ごみの減量とリサイクルの推進につきましては、リサイクルプラザ苫小牧条例を改正し、ゼロカーボンや生物多様性※などと連動した取組を進め、包括的な環境教育や情報発信に取り組む拠点を形成してまいります。

また、学校から排出される給食残さのバイオガス発電※への活用を継続し、温室効果ガスの排出量削減に努めてまいります。

（５）安全・安心で快適に暮らすまち

居住環境の充実につきましては、市営住宅整備計画に基づき、光洋・日吉団地の建替事業に着手するなど、管理戸数の適正化を進めてまいります。

また、空き家対策として、定期的な実態把握や空き地を含めた相談窓口の一元化など、取組の強化に努めてまいります。

さらに、ウトナイ地区において、誰もが安全・安心で快適に利用できる、勇の原公園の整備に引き続き取り組んでまいります。

上下水道の整備・健全な維持管理につきましては、上下水道施設の耐震化を計画的に実施するとともに、雨水管整備による大雨対策や災害時における水道の安定供給に向けたインフラ整備を推進するほか、下水道管の点検により健全性を確認し、必要な老朽化対策を進めてまいります。

また、水道窓口業務の包括的な民間委託により、効率的な運営体制を構築し、持続可能な市民サービスの提供を目指してまいります。

道路の整備につきましては、道路照明灯のＬＥＤ化や老朽化が進行している舗装道路の改修、橋りょうの長寿命化対策などを計画的に進めてまいります。

公共交通の充実につきましては、とまこまい版M a a S※構想を踏まえ、地域公共交通計画の見直しを行うとともに、勇払地区における

A I デマンド*乗合タクシーやナイとまバスの実証運行に取り組むなど、持続可能な公共交通ネットワークの構築に努めてまいります。

消防・救急体制の充実につきましては、東胆振 1 市 4 町の消防指令業務共同運用に向けた取組を進め、強固な消防体制を構築するとともに、救急活動資器材の充実を図り、業務の迅速化と円滑化につなげてまいります。

防災体制の充実につきましては、勇払公民館への津波避難施設整備に着手するとともに、地域防災計画の見直しを行い、市民の防災意識の向上を図ってまいります。

交通安全の推進につきましては、自転車用ヘルメット購入補助を継続し、事故の被害軽減を図るとともに、高齢者や子どもたちの安全教育の拡充に努め、交通事故の根絶を目指してまいります。

防犯対策の推進につきましては、新たな総合防犯計画に基づき、防犯意識の啓発や地域防犯力の向上を図るとともに、防犯カメラの設置を進めてまいります。

消費生活の安定につきましては、消費生活相談システムを改修し、複雑化する相談対応の充実を図るとともに、サポーター養成講座を開催し、消費者教育の担い手を育成してまいります。

また、公設地方卸売市場においては、関係者との協議を重ね、老朽化が進む水産棟の再整備計画を策定してまいります。

4 予算編成

令和7年度の当初予算は、社会経済情勢や国の政策動向を踏まえ、市民生活に配慮しつつ、「苫小牧市総合計画第7次基本計画」と「子ども・子育て支援」、「教育環境整備」等に基づく施策に予算を重点化する方針により、主要事業の一般財源は、47億6千万円、早期発注事業として、2億8千万円を計上しました。

以上の結果、当初予算は、

一般会計 91,575,000 千円

特別会計 33,887,783 千円

企業会計 23,336,735 千円

合計 148,799,518 千円となりました。

各会計の予算案は、議案第10号から第17号であり、関連する議案は、第25号であります。

※各会計予算と関連議案の詳細につきましては、予算委員会において説明します。

■ 5 むすび

苫小牧市は、先人のたゆみない努力と英知の結集によって、海と空のダブルポートを擁する地理的優位性や産業基盤のもと、産業都市として北海道経済をけん引する大きな役割を担うまでに成長を続けてまいりました。そして、昨今は新たな企業進出の動きが加速しており、更に大きく発展するポテンシャルを秘めたまちであると確信しております。

しかし、この可能性を秘めたまち苫小牧を、次なるステージに引き上げるためには、私の思いだけでは決して成しえることはできません。

市民や企業の皆さま、そして行政と議会が一体となって、知恵を絞り、大きな希望を抱きながら、“市民総活躍”で本市の発展に向け、取り組むことにより、子どもたちが笑顔で夢を語れるまちを築くことができるかと信じております。

私は、未来を担う子どもたちが幸せに暮らしていけるよう、“万里一空”の精神で、たゆまぬ努力と挑戦を続け、多くの方から“選ばれたまち苫小牧”を実現する強い決意を持って、令和7年度の市政を推進してまいります。

用語解説

本文中において「〇〇〇*」と表示された用語について解説します。

あ行

◆医療DX構想 (P15、28)

医療分野においてデジタル技術を活用し、医療の質や効率の向上を目指す構想。

◆ウォーターフロント (P10)

都市の新たな開発区域としての港湾・臨海部を意味した言葉。苫小牧市においては、西港北ふ頭エリア・漁港エリアを指す。

◆AIデマンド (P11、36)

人工知能を活用して需要を予測・分析し、最適なサービス提供を行う仕組み。

か行

◆かん養 (P30)

森林が水資源を蓄え、育み、守っている働きのこと。

◆グリーンエネルギー (P11)

太陽光、風力、地熱、バイオマスなど、環境への負荷が小さいエネルギー。

さ行

◆サードプレイス (P33)

自宅でも職場や学校でもない、人々が心のよりどころとして集う第3の居場所。

◆シビックプライド (P5)

地域や自治体に対する住民の誇りや愛着、そして地域社会に貢献する意識を指す言葉。

◆GX特区 (P9)

再生可能エネルギーの利用促進やエネルギー効率の向上を目指し、特定地域において規制の緩和や支援策が講じられる制度。

◆スクールロイヤー (P13)

学校で起こるいじめや保護者とのトラブル等を法的に解決する弁護士。

◆スマートシティ (P6、24)

デジタル技術の活用により、生活者の利便性・快適性の向上に取り組む都市のこと。苫小牧市においても、自動運転バスの実証など、各種取組を実施している。

◆生物多様性 (P30、33、34)

様々な生き物が、異なる環境で自分たちの生きる場所を見つけ、互いに違いをいかしながら、つながり調和していること。

◆生成AI (P18、26)

人工知能を使って新しいデータを生成する技術。

◆ゼロカーボンシティ (P24、34)

二酸化炭素などの温室効果ガス実質排出量ゼロを目指すまち。本市では2050年までの達成を目指すゼロカーボンシティ宣言を2021年8月24日に行った。

た行

◆タレントマネジメントシステム (P20)

従業員の基本情報やスキル、能力などといった情報を一元的に管理・共有できるシステム。

◆地方創生2.0 (P4)

石破政権が掲げる新たな地方創生戦略。

◆苫東GX HUB構想 (P11)

苫東地域のカーボンニュートラル化を目指す構想。

は行

◆バイオガス発電 (P34)

バイオマス（家畜糞尿、食品廃棄物、木質廃材など）の発酵などによって生成されたバイオガスを燃焼して電力を生み出す方法。

◆フリーアドレス化 (P20)

固定席を作らず、自由な席で仕事を行えるようにする働き方。

◆北海道バレー構想 (P9)

次世代半導体の製造拠点を中核に、苫小牧から石狩を結ぶ一帯のエリアを先端技術産業の集積地として発展させる構想。

ま 行

◆ マイクログリッド (P11)

平常時には再生可能エネルギーを効率よく利用し、非常時には送配電ネットワークから独立し、エリア内でエネルギーの自給自足を行う送配電の仕組み。

や 行

◆ ヤングケアラー (P8)

本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子供のこと。

◆ U I J ターン (P9)

Uターン、Jターン、Iターンの3つの人口還流減少の総称。本市を基準にした、それぞれの人口還流は以下の通り。

Uターン：本市→都市部→本市

Iターン：都市部→本市

Jターン：近隣市町村→都市→本市

わ 行

◆ ワークエンゲージメント (P20)

仕事にやりがいを感じ、熱心に取り組み、仕事から活力を得ている状態。

英数字

◆ C C S (P23)

工場や発電所から排出される排ガス中の二酸化炭素を大気放出する前に分離・回収し、地中で長期間にわたり安定的に貯留する技術。

◆ C C U S (P5、11)

C C S（二酸化炭素の回収・貯留）とC C U（二酸化炭素の回収・有効利用）の二つの技術の総称。

◆ D M O (P16)

地域の観光資源を戦略的に管理・促進し、持続可能な観光地域づくりを推進する組織。

◆ I C T (P16、26、29、33)

情報(Information)、伝達(Communication)、技術(Technology)の意味で「情報通信技術」と訳す。パソコンやスマートフォンなど様々な形状のコンピュータを使った情報処理や通信技術の総称。

◆ L G B T (P19)

レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字を並べた略称。

◆ M a a S (P35)

Mobility as a Serviceの略称。地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせで検索・予約・決済等を一括で行うサービス。

◆ M I C E (P18、24)

企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字を使った造語。これらのビジネスイベントの総称。

◆ Z E H (P34)

ネット・ゼロ・エネルギーハウスの略称。快適な室内環境を実現しながら、建物内の年間消費エネルギーの実質ゼロを目指した建物。

TOMAKOMAI



TOMAKOMAI HOKKAIDO